

For a more human architecture in harmony with nature

# HUNDERTWASSER

architecture

# フンデルトワッサー展

楽園を求めて  
—  
絵画から建築へ



曲げた定規を持つフンデルトワッサー photo by Gerhard Krömer

4/28(水)→5/30(日)'99

休館日=月曜日(但し、5月3日(月)は開館 5月6日(水)休館)  
開館時間=午前9時—午後5時(入室は午後4時30分まで)/初日は午前10時開展式  
毎週金曜日は午後7時まで閉館(入室は午後6時30分まで)

**高松市美術館** 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4  
Takamatsu City Museum of Art Tel 087-823-1711

入場料=一般1000円(800円)/高大生600円(480円)/小中生300円(240円)  
■( )内は前売りおよび20名様以上の団体料金  
■65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または  
精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料 ■第2・第4土曜日は小・中・高生入場無料

主催=高松市美術館/日本経済新聞社/テレビせとうち 後援=オーストリア大使館  
協カ=ルフトハンザ・ドイツ航空 企画協力=ヨールム・ハレル事務所/(株)まつもと



フンデルトワッサー・ハウス

# フンデルトワッサー展

楽園を求めて—— 絵画から建築へ フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー

(1928-)は、世界に広く知られた今日のオーストリアを代表する芸術家です。人間の利便のために自然に手を加えつづけ、自然を疎外した人工環境のなかで、ついにはみずからも一員であるはずの自然の本性を見失った西欧近代。フンデルトワッサーは、そのような西欧近代の在り方に疑問を持ち、自然の本性を回復してその必要と大切さを自分以外の人にも伝えるため創作しています。

フンデルトワッサーは、自然に従いながら真に人間らしく生きることを、絵にするだけでなく様々な方法で具体的に実践して示してきました。なかでも建築は、彼の思想の集約であり、人々がそれを体験し実感する貴重な場となっています。この展覧会は、彼の名を高らしめたフンデルトワッサー・ハウスから建築思想を集大成したブルマウ温泉村までの業績を代表作品の建築模型約8点と、さらに絵画・版画・素描約45点と写真などの資料約70点で紹介するものです。

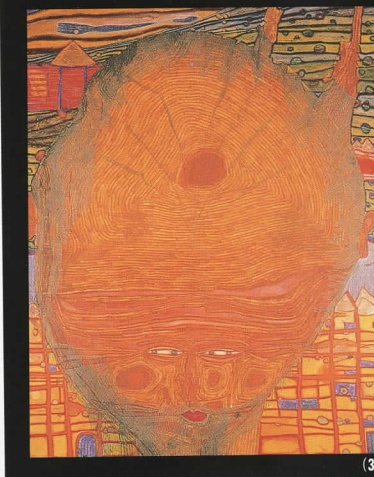
環境問題の解決が、地球全体の重要課題となっています。フンデルトワッサーの取り組みは先駆をなすものであり、それへのひとつの回答として多くの示唆を含んでいます。この展覧会は、より良い未来に近づくための手がかりとなるものです。



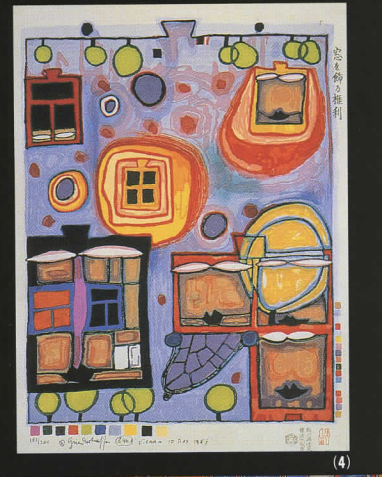
(1)



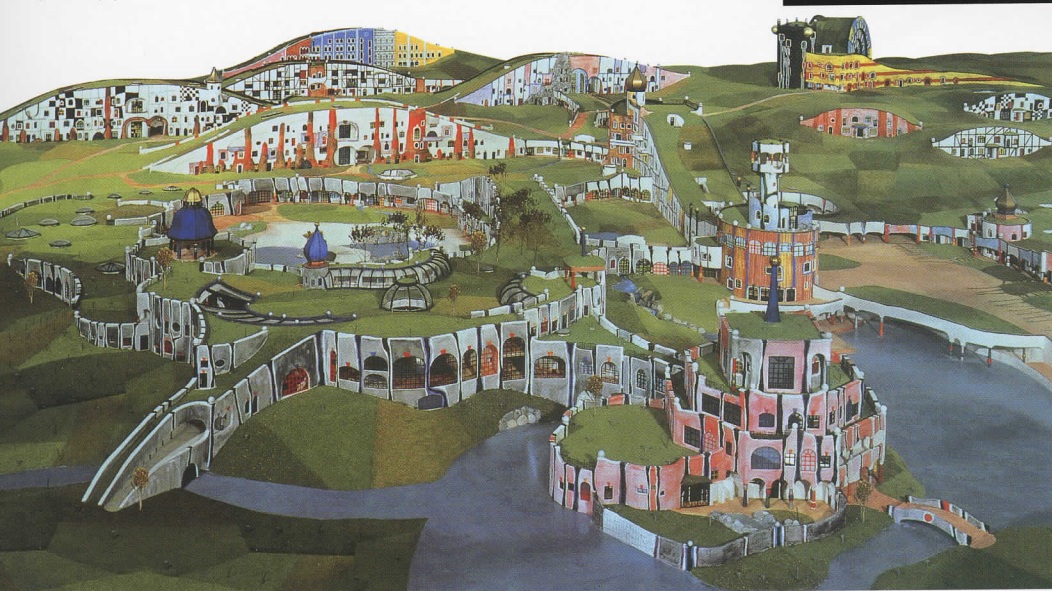
(2)



(3)



(4)



(7)



(5)



(6)



(8)



(9)



(10)



都合により展示物に  
変更のある場合があります。

## ● ギャラリー・トーク

当館学芸員が展示作品の解説をいたします。  
4月29日/5月8日、9日、23日午後2時より2階展示室にて

## ● 催し物のお知らせ

ミュージアム・コンサート  
ニコライ・サチェンコ ヴァイオリン・リサイタル  
5月16日[日] 午後6時30分開演 入場料1,500円

## ● 次回展覧会

「藤子・F・不二雄の世界展」  
6月4日[金]-7月4日[日]

- (1) ①28 ユルガーアルムの風景、水彩、アフレント 1951年
- (2) ④84 血の雨の降る家々、混合技法、東京 1961年
- (3) ④88 髭は禿頭の男の芝草、混合技法、ラ・ピコティエール 1961年
- (4) HWG:92 ④85A 窓を飾る権利、日本製木版画、京都 1986年
- (5) ④78 格子の反乱、混合技法、カウスイ 1996年
- (6) ④85 窓辺の涙、混合技法、ラ・ピコティエール 1997年
- (7) ブルマウ温泉村建築模型、アルフレッド・シュミード制作
- (8) シュピテラウ地区焼却場建築模型、アルフレッド・シュミード制作
- (9) ヘデルンハイム保育所、ペーター・ベリカンの複写図案に水彩とフェルトペン、1987年
- (10) 聖バルバラ教会 photo by Hubert Kluger